

記者発表 (発表・資料配布)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	配布先
8/7 (金)	県立農林水産技術総合センター (病虫害防除所)	0790-47-1222	病虫害防除所長 (神頭 武嗣)	県庁記者クラブ 北播磨県民局

令和2年度病虫害発生予察注意報 第2号
「アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガの発生状況と防除対策」について

兵庫県立農林水産技術総合センター（病虫害防除所）が実施した、誘致植物（クレオメ）を利用した病虫害発生予察調査において、平年より早い時期からハイマダラノメイガ幼虫の寄生が確認され、発生が多い状態が続いています。今後、育苗が始まるアブラナ科野菜への加害が懸念されることから、ハイマダラノメイガの発生状況および防除対策について、関係機関から生産者への指導を促すため、「病虫害発生予察注意報 第2号」を発表します。

記

1. 対象作物 アブラナ科野菜（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン等）
2. 病虫害名 ハイマダラノメイガ（別名：ダイコンシンクイムシ）
3. 発生地域 県内全域
4. 内容 詳細は別紙「注意報 第2号」のとおり

兵庫県立農林水産技術総合センター（病虫害防除所）は、農作物を加害する病虫害の発生状況を調査するとともに、その後の発生を予測し、普及指導員やJAの営農指導員等に「予察情報」として提供しています。また、農業生産現場から持ち込まれた病虫害の診断も行っています。

(電子メール施行)
農技第1186号
令和2年8月7日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予察注意報 第2号を發表します。

ハイマダラノメイガの多発傾向がみられています。本種は、アブラナ科野菜の生育初期に生長点付近を食害し、深刻な被害を与えるため、育苗期や定植後の対策を徹底するよう指導願います。

令和2年度病虫害発生予察注意報 第2号

アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガの発生状況と防除対策について

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1 対象作物 | アブラナ科野菜 (キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン等) |
| 2 病虫害名 | ハイマダラノメイガ (別名: ダイコンシンクイムシ) |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 8月中旬~10月下旬 |
| 6 発生状況について | |

- (1) 県立農林水産技術総合センター (加西市) で実施しているハイマダラノメイガの誘致植物^{※1} (クレオメ) による調査において、本年は、調査を開始した7月上旬 (7月10日) から幼虫の寄生が確認され、その後は花枝^{※2}への寄生率が50%を超える状態が続いている (図)。7月の花枝寄生率の平均値は55.3%と、平年(5.1%)と比較して大幅に高く、8月第1週 (8月5日) の調査では83.8%と、さらに高い寄生率を示している。
- (2) 向こう1ヶ月の近畿地方の気象予報では、平年より気温は高く、降水量は少ないとされており、本種の増殖に好適な条件であることから、発生はさらに増加すると考えられる。
- (3) 今後、野菜類の育苗や本圃への定植 (ダイコン等の直播栽培を含む) が始まることから、対象作物の被害が拡大することが懸念される。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝 (花枝) を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

7 本種の特徴について

本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。成虫（写真1）は体長約10mmで、生長点付近に1卵ずつ産卵する。幼虫は、作物の育苗期～本圃栽培初期では、生長点付近に食入し、葉を綴り合わせて食害する（写真2）。

生育初期に食害されると成長が止まり（写真3）、キャベツ等の結球野菜では、食害を受けた株は結球しなくなり（写真4）、商品価値を失うため、1頭でも株に存在すれば減収につながる。

8 防除上の留意点

- (1) 育苗期から生育初期における予防的防除が重要である。
- (2) 加害を確認してからの対策では手遅れとなるので、発生盛期である8月中旬～9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを前提とした防除に努める。
- (3) 寒冷紗や防虫ネット、不織布による被覆は、成虫の飛来・産卵防止に効果がある。防虫ネットの目合いは、 $2 \times 4 \text{ mm}$ 以下で十分な防除効果が得られる。被覆資材の利用にあたっては、内部が高温になりすぎないように注意すること。成虫は夜間に活動（産卵）するので、黄色灯の利用も飛来・産卵防止効果が期待できる。
- (4) 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の降雨などの条件により、十分な効果が得られないこともあるので、本圃での発生状況に注意して、必要に応じて薬剤散布を実施する。
- (5) 薬剤散布を行う場合、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

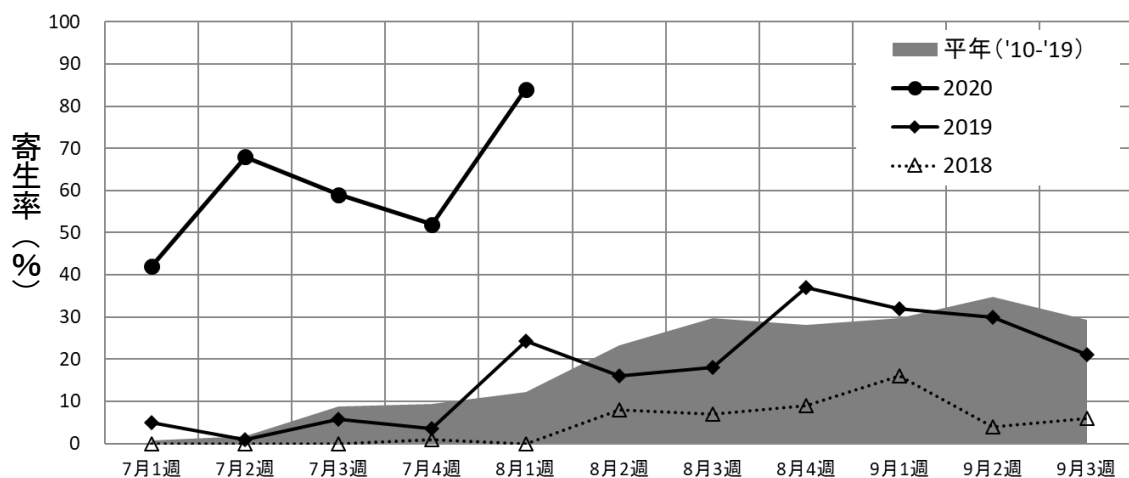


図 誘致植物（クレオメ）の花枝におけるハイマダラノメイガ寄生率の推移



写真1 ハイマダラノメイガ成虫



写真2 幼虫とその被害
(生長点の食害)



写真3 食害を受けたダイコン



写真4 食害を受けたキャベツ
(正常に結球しない)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222